

*3年間のふり返り

3年間の日本語教員養成課程をふり返るうえで、初めに私が日本語教員養成課程を履修しようとした理由について示したいと思います。私はここ西南女学院大学・英語学科に入学した明確な理由はありませんでした。日本語教員という職業があることも入学するまで知りませんでした。入学して英語教師になりたいから、海外に留学したいからという友達の入学理由を聞いても、みんなしっかり考えて入学しているんだなとしか思いませんでした。大学に入学して何がしたいか分からない、そんな考えのまま英語・日本語教員養成課程のどちらかを履修するか、それともどちらとも履修しないか決める時期が迫りました。「せっかく大学に通っているのだから、教員養成課程は一度履修してみよう」という軽い気持ちで、教員養成課程を履修することに決めました。次に英語と日本語どちらを履修しようかでは、「日本語を使って教えられるなら、日本語教員のほうが簡単ではないのかな」という気持ちで、本当に何も考えることなく、日本語教員養成課程を履修して日本語教員になろうなど考えることもない状態で、日本語教員養成課程を履修することに決めたのです。しかし実際履修してみると、1年前期から授業が始まり、毎週教科書を読んで宿題をして、有名な先生の授業の映像を通して教え方を学んで...と、日本語教員の勉強ってかなり大変だったと感じました。「履修しなければよかったかな」と考えたことや、1年生、2年生、3年生と、年の節目に履修届を出すたびに、「自分は日本語教員になろうと思っているのか、このまま続けてもよいのだろうか」と思ったこともありました。

こうして迷いながらも続けた日本語養成課程で「これだけは変わった、成長した」と言えることがあります。それは「失敗が怖くなくなった」ことです。小学校、中学校、高校と私は失敗することが怖く、何事も実行する前から最悪のことを考えて、一步を踏み出せずにいました。この性格のため、人前に立つことや、やってみたいけど失敗したら、とありのままの自分をさらけ出すことや、やりたいこともできませんでした。しかし日本語教員養成課程での様々な授業で、私の性格は徐々に変わっていったと感じます。授業では、教材を作ってはみんなに紹介して反省点を考えて、授業を行ってはみんな反省して、と自分を反省し振り返る時間を、多く持つことができました。1年生の時の授業では、発言の機会が与えられていても、初めに自分から発言することはあまりありませんでした。間違った答えをしないためでした。しかし授業を重ねるにつれて、「行動して、反省して」という日本語の授業サイクルに慣れ、初めに発言することも怖くなくなりました。「間違えたなら新しく考えて答えればいい」と思うようになったからです。このような授業を何度も受けていく内に、「失敗をしたらどうしよう」と考えることが少なくなっていきました。失敗を考えるよりも、どうしたらわかりやすい教材を作れるか、どんな言葉を使えば学習者は理解しやすいだろうかと、工夫や改善点に注目して考えるようになっていくようになりました。

した。考え方が変わると、気持ちが前向きになったようにも感じました。気持ちが前向きになると、行動力が出てきました。この性格の変化は、3年生の前期に行ったウィンチェスターの留学生に日本語を教える実習と、後期に行った北九州 YMCA での教壇実習の時にすぐ役に立ちました。前期では、みんなでどんな授業構成にするか話し合う際に、分からない部分は分からないと質問でき、「こんな教材を作って使ってみるのはどうか」など、積極的にみんなに自分の意見を伝えることができました。この行動は、「それは違うのではないか」とみんなに言われることを恐れるのではなく、「みんなでより良い授業を作れるように」と考え方が前向きになったからできた行動だと思います。後期でも、初めに漢字を教えるか、文法を教えるかと担当を決めるときに、「ここを教えてみたい」と自分の意見を主張することができました。やってみたいことを実行する行動力がついたおかげです。また、たくさんの学習者の前での授業は本当に緊張するものでしたが、授業中に予想もしていないことを質問されたり、教材をバラバラにしてしまったりしても、授業を最後まで続けることができたのは、「失敗してもいい、失敗から吸収しよう」と前向きになれたからだと感じます。実習でうまくいった黒板整理や、学習者へ積極的に質問していこうとする姿勢や、吹っ切って演技をすることは、3年間で性格が変わった成果だと思います。

日本語養成課程で得た性格の変化や経験は、日本語の授業だけではなく、私生活や他の分野でもとても役に立ちました。例えば、行動力のおかげで、春休みに短期ですが、ニュージーランドへ留学することができました。きっとこれまでの自分では、「外国は怖いから、自分の英語は通じないから」と失敗を考えて行動しなかったでしょう。ほかにも、英語とは分野の違う勉強にも挑戦してみました。福祉とパソコンの勉強をして資格を取ることができました。日本語教員養成課程を通して、「失敗が怖い、失敗した自分が恥ずかしい」という気持ちを持った私はいなくなり、「次は何に挑戦しようか、失敗しても振り返って失敗を糧にまた努力をすればいいだけだ」と前向きに考える気持ちを持った人間に生まれ変わることができました。

* これからの抱負

将来のことは分かりませんが、私はきっと日本語教員にならないだろうと今は感じています。3年生での教育実習はきついことも辛いこともありましたが、最終的には楽しかったと感じています。やりがいを得ることができ、様々なことを学ぶこともできました。それと同時に、私は「人に教えることは向いていない」と感じました。しかし、この日本語教員養成課程で得た知識や情報を活かした仕事、日本語を学ぶ外国人と日本語教員に関わる仕事がしたいと、現在のところ考えています。日本語教員養成課程で学んだことは、これからの日本社会にとって、とても重要になってくるものがたくさんありました。昨年、外国人労働者の受け入れ拡大法案が可決されました。このことから日本に働きに来る外国人や日本語を学ぶ外国人は増えるだろうと考えられます。日本語教員ではなくとも、外国人

と関わる機会は増えると思います。そんな中「ベトナム人が踏切内に立ち入り電車が停止した」というニュースを見ました。そのベトナム人は来日したばかりだったということと、このニュースについて取材されていたほかのベトナム人の意見として、「ベトナムは都市には踏切があるけど、線路内に入れる場所が多い」と語っていました。結局、踏切内に立ち入ったベトナム人は、故意に踏切内にとどまったとして逮捕されました。このニュースについてネットで検索してみると、「国へ帰れ！」という書き込みが見られました。私は異文化の授業やYMCAでの実習で、外国人の文化を学ぶ機会が多くあったので、「外国人との間に感じる違いは、文化の差ではないか」と考え、理解し、受け入れることができます。しかし、外国人とあまり関わったことのない人、文化の違いを受け入れようとならない人など、外国人に対しての負の意見を持つ人は、日本にも多くいると思います。そんな社会の中で、私は外国人が少しでも日本で暮らしやすい環境を手に入れることができるようにしたいと思っています。日本語を教えていく過程で知った留学生の生活状況や言葉の壁によって起こるすれ違いなどの知識を活かして、外国人と日本人の間に立って良い交流を作れる環境づくりを、失敗を恐れずに前向きに考えて、行動を起こして行きたいと思っています。このように、日本語教員養成課程で学んだ学びを、日本語教育の基礎部分を支えるために使いたいと思っています。